



平成29年6月1日

担当

福島労働局 労働基準部
 健康安全課長 清水俊明
 安全衛生係長 高橋貴大
 電話 024-536-4603 (直通)
 富岡労働基準監督署
 監督・安衛課長 須田裕太
 電話 0240-28-0170

熱中症防止対策の徹底を関係事業者等に要請

福島労働局（局長 島浦幸夫）では、熱中症による労働災害の発生を防止するため、除染作業を発注している環境省福島環境再生事務所及び市町村のほか、県建設工事発注機関、労働災害防止団体等に対し、労働者の熱中症防止対策の徹底について文書により要請することとしました。

また、富岡労働基準監督署（署長 田中暁雄）では、東京電力ホールディングス株式会社福島第一廃炉推進カンパニー及び廃炉作業の元請事業者に対して、熱中症防止対策の徹底について明日要請することとしています。

熱中症による労働災害の推移



全国における熱中症による休業4日以上の死傷者数は、平成22年の656人をピークに、平成23年以後も400人～500人台で推移し、平成28年も400人以上発生しています。

平成28年においては、全国における熱中症による死亡者数は16人となり、平成27年と比較して16人の減少となりましたが、休業4日以上の死傷者数はほぼ同数で、減少には至っておりません。

県内においては、平成28年は休業4日以上の死傷者数は11人となり、平成27年と比較して8人の減少に至りました。しかしながら、昨年も熱中症による死亡災害が発生し、3年連続発生する事態となっております。

福島労働局では、このような現状を踏まえ、熱中症による労働災害の発生を防止するため、あらゆる機会を捉えて熱中症防止対策の徹底を図ることとしています。



平成28年の熱中症による労働災害発生状況



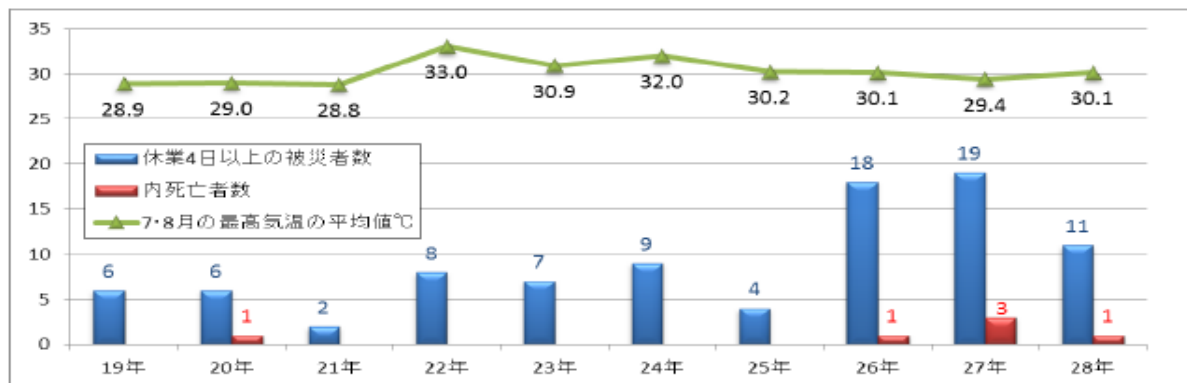
福島労働局

1 福島県内の発生状況

(1) 休業4日以上の中熱症の推移（平成19年～平成28年分）

福島県内の平成28年の熱中症による休業4日以上の中熱災害は11件、うち死亡災害1件発生し、平成27年と比較して8件、死亡災害は2件減少した。

災害件数は減少したものの、死亡災害が発生しており、7・8月の最高気温平均値も平成19年と比較すると年々高くなっていることから、今後も熱中症防止対策の徹底が必要です。



注）7・8月の最高気温の平均値は福島県の値（気象庁データ）

(2) 平成28年死亡災害発生事例

発生日時・発生場所	被災者	発生状況
9月6日 14:30 福島市	土木工事業 作業員 男 34歳	除染等業務における除去土壌の仮置き場において、フレコンバックを作製する作業を行っていたが、14時30分ごろ体調不良となったため、自車の中で休憩していたが、14時45分ごろに体調が急変し、意識が朦朧となったため病院へ搬送したが9月20日に死亡した。 (発生場所付近の最高気温 35.3℃)

(3) 平成28年休業災害発生事例

番号	発生日時 発生場所	業種	被災者	発生状況
1	6月12日 17:40 船引町	食料品製造業	販売作業員 女 37歳	職場のトイレ清掃作業終了後に、近くにいた上司に体調不良を訴えた直後に倒れたため、病院へ救急搬送された。 (発生場所付近の最高気温 28.8℃)
2	7月1日 15:00 郡山市	小売業	配送作業員 男 49歳	朝から自動車で商品の配達作業中、午後3時頃に車内で眩暈を生じたが、そのまま作業を続けた。夕方事務所に戻ったところ、眩暈、手足のしびれ、頭痛があり、そのまま帰宅し、午後6時に自ら病院に行き受診した。 (発生場所付近の最高気温 29.5℃)

3	7月12日 12:00 相馬市	鋳物業	製造作業員 男 23歳	朝から体調不良を訴えていたため、午前10時頃から現場責任者の指示で休憩していたが、改善せず、昼になり帰宅するよう言ったところ自力で歩行できず、その場に倒れこみおう吐した。 (発生場所付近の最高気温 26.1℃)
4	7月12日 15:30 白河市	建築工事業	型枠大工 男 25歳	工場内にて部材の組み立て作業中、体調不良となり、指先にしびれや足がつる状態となったため病院へ行った。 (発生場所付近の最高気温 29.9℃)
5	7月29日 19:00 郡山市	警備業	警備員 女 55歳	昼から郡山市内の駐車場で案内誘導業務を行っていた。午後6時に作業が終了し、自宅に帰宅したところ午後7時後に吐き気と眩暈症状が出たため救急車で病院に搬送された。 (発生場所付近の最高気温 31.6℃)
6	8月4日 14:00 会津若松市	道路建設工事業	土木作業員 男 72歳	道路舗装現場で作業中、午前10時頃に体調不良を訴え午前10時30分頃に帰宅した。自宅に戻り昼食をとった後、体調不良が悪化し動けなくなったため、午後2時頃に救急車で病院に搬送された。 (発生場所付近の最高気温 33.7℃)
7	8月5日 15:00 福島市	自動車・同付 属品製造業	発送係員 男 42歳	工場内で製品の集荷作業終了後、事務所内で体のこわばり、吐き気を訴えていたため、体の冷却を施したが回復しなかったため、病院に搬送された。 (発生場所付近の最高気温 33.4℃)
8	8月6日 12:00 いわき市	木造家屋建築 工事業	土木作業員 男 61歳	木造家屋建築工事現場でブロック積み作業を行っていたところ、昼頃に体調不良となった。 (発生場所付近の最高気温 31.3℃)
9	8月18日 20:00 茨城県	道路貨物運送 業	運転手 男 48歳	ターミナルホームで積込み作業中、体調に異常を感じたがそのまま作業を継続し、郡山に向けて出発した。郡山市に到着し、両手両足の強張り、呂律に異常を認めたため病院に搬送された。 (発生場所付近の最高気温 30.7℃)
10	8月24日 14:50 南相馬市	その他の建設 業(除染作業)	除染作業員 男 56歳	森林の除染等業務のため刈払作業を行っていた。午後3時の休憩で、休憩用バスを待っていたところ眩暈により転倒した。 (発生場所付近の最高気温 27.0℃)

注) 発生場所付近の最高気温は気象庁の観測地点のデータ

2 熱中症防止対策

- (1) 熱への順化の有無が、熱中症の発生リスクに大きく影響することから、7日以上かけて熱への順化を行う。
- (2) 熱中症防止管理者を選任し、現場の熱中症防止対策の徹底について確認する。
- (3) 睡眠不足、前日の多量の飲酒、当日の朝食の未摂取等が熱中症の発症に影響を与えるおそれがあるため、十分な睡眠をとり、朝食を食べ、多量の飲酒は控える。
- (4) 作業中は自覚症状の有無にかかわらず、水分及び塩分を定期的に摂取する。
- (5) 休憩場所には日除けを設け、クーラーボックス等を備え、冷たい飲物(飲料水、スポーツドリンク等)、経口補水液、おしぼり等を準備する。
- (6) 作業に応じて服装等は透湿性及び通気性の良い服を着用する。また、通気性の良い帽子、ヘルメット等を着用する。

2 全国の発生状況

(1) 死亡者数の推移（平成22年～平成28年分）

年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
熱中症による死亡者数	47	18	21	30	12	32	16
7・8月の最高気温の平均値(℃)	28.8	27.4	27.8	28.3	27.3	31.2	30.7

注) 7・8月の最高気温の平均値は東京都の値(気象庁データ)

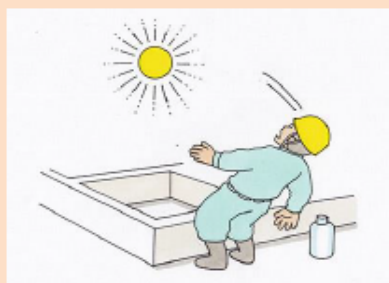
(2) 死亡者数の状況（全国・平成22年～平成28年）

業種別の発生状況を見ると、平成28年では半数以上が建設業で発生している。

業種	建設業	運送業	警備業	製造業	林業	その他	計
平成22年	17	2	2	9	1	16	47
平成23年	7		3		2	6	18
平成24年	11	4	2		2	2	21
平成25年	9	1	2	7	1	10	30
平成26年	6	2		1		3	12
平成27年	12	2	7	5		6	32
平成28年	9				1	6	16

月別発生状況を見ると、7月及び8月に全体の約9割が発生している。

月	5月	6月	7月	8月	9月	10月以降	計
平成22年		2	25	19	1		47
平成23年		5	5	7	1		18
平成24年			11	9	1		21
平成25年		1	14	14		1	30
平成26年			6	5	1		12
平成27年		2	11	18	1		32
平成28年		2	4	8	2		16



イラスト：職場の安全サイト



イラスト：職場の安全サイト